

『公立幼稚園の廃止』の反対ならびに、公立幼稚園4園の存続希望について

箕面市は、公立幼稚園の充実した環境が、大変魅力的な町でした。子どもにとっても保護者にとっても子育てしやすい環境に繋がっていたと考えます。公立幼稚園が多いことは、決して損なことではなく、「子育てしやすい日本一」を掲げる箕面市の強みとなるのではないのでしょうか。

しかしこのたび、公立幼稚園の廃止という見過ごせない素案が出されたことが残念でなりません。公立幼稚園へ通う園児が減少しているから、園児一人当たりの経費が高いから、というのは子どもや保護者のことを考えていない箕面市の身勝手な判断にほかなりません。公立幼稚園の園児が減少するような政策をしてきたのは箕面市であり、長い歴史ある公立幼稚園の存続を、人数が少なくなった近年のデータのみで判断することは到底納得できるものではありません。未来ある子どものためにも保護者のためにも箕面市のためにも公立幼稚園が存続するよう希望しています。

—記—

I. 公立幼稚園4園の存続を希望します。

1. 支援が必要な子どもたちはどこへ行けばいいのか。

公立幼稚園には、支援の必要な子どもが多数在籍しています。

私立幼稚園でも受け入れているとなっていますが、実際のところ公立幼稚園への入園を勧めているのが現状です。私立幼稚園で受け入れた場合でも、今の公立幼稚園のようにきちんとみってくれるのか（現在、障害の程度が重い子は一人につき先生が一人ついています）は不安材料の一つです。

公立幼稚園での子どもたちは、支援のある子も無い子も一緒に生活していくなかで、世界にいろいろな人がいることを学び、お互いを受け入れ偏見の目を持たない優しい子に成長しています。公立幼稚園の校数が今より減少した場合、支援の必要な子が残った園に集中してしまうことが予想されます。集中した場合、支援の先生の人数が増え、職員室に入りきらなかったり、子どもたちの保育室に大人が多数入ることになったり、保育の弊害に繋がる恐れがあります。

そういった弊害を回避するためにも、既存の4園は残し分散して保育にあたることが一番望ましい形なのではないでしょうか。

2. 公立幼稚園でしか体験できないことがたくさんあること。

- ・地域の人、他の公立幼稚園、公立保育所、公立小学校、公立中学校との交流。
- ・公立小学校・公立中学校の行事への参加。
- ・地域イベントへの参加。
- ・年長児は就学に向けて新6年生とのつながりを持つため、小学5年生との交流が年に数回あります。お兄さん・お姉さんと接していることで、顔見知りの上級生ができつながりが出来、安心して新一年生にあがることができます。
- ・健常児と支援を要する子が混在していて、お互いに理解と協力関係を築いて成長することができます。

地域の大人との交流、就学に向けての子供同士の交流や経験、体験ができる機会は公立幼稚園にしかありません。

3. 私立幼稚園の定員について（補足資料1④）。

箕面桜ヶ丘幼稚園は閉園が決定しており、令和3年度入園生を最後に入園募集を停止します。これにより私立幼稚園の定員は約300名減少となるため、新改革プランの補足資料にある、『私立幼稚園の定員には空きがあり幼稚園通園希望者全員を私立幼稚園の定員で受け入れ可能』というのは重大な誤りです。公立幼稚園が廃止となれば、幼稚園に通いたいのに通えない児童が出てきます。

4. 公立幼稚園の3年保育・延長保育の実現をご検討ください。

3年保育・延長保育が可能になれば、私立と公立の保育の差が少しだけ縮まります。

働いている保護者にとっても、公立幼稚園の保護者にとっても子育てしやすい環境になります。また、公立幼稚園を積極的に支援することで、公立幼稚園の園児人数が増え、園児一人当たりの経費は安くなります。

公立幼稚園の充実こそが、箕面市の掲げる「子育てしやすい日本一」の強みとなるのではないのでしょうか。

延長保育として、ちょっと保育「あそびー」「まみーず」を公立幼稚園に移設するなどの案もご検討ください。

5. 先生が長く働ける環境が整っており、経験豊富であること。

先生が、結婚・妊娠・出産しても復帰して安心して働けるのが公務員としての魅力です。公立の先生方は定期的に勉強会や研修があり、若い先生も育成できる環境が整っています。経験豊富な先生が多数在籍し、保護者も相談しやすく、子どもたちを安心して預けることができます。健全児と支援を必要としている子と幼稚園で過ごすことは学校生活におけるサポートが就学後も不安や疑問がなくできます。その手助けをしてくれているのが先生方です。子供が分け隔てなく幼稚園生活をおくれるのは、すべて知識ある先生方の接し方のおかげです。

6. 家計にやさしい公立幼稚園の費用。

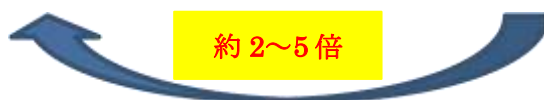
数年前より、箕面市は補助金を出し、現在3歳以上の保育料の無料化をアピールしてきました。しかし、実際は、下記の表のとおりです。

公立幼稚園は、諸費の範囲内であるため、この金額を超えることはありませんが、私立幼稚園は、最低費用の算出となります。私立幼稚園の入園金や月々の諸費などの負担額は決して安いものではありません。

概算すると、1年あたりの家計からの支出は約2倍～5倍の増加、3年保育・2年保育で支払う合計をみると2.6倍～6.4倍の増加が公立幼稚園に通う家庭・通わせようと考えている家庭にとって家計に重くのしかかることになります。

専業主婦で子育てを頑張ろうとしている保護者にとって、払うには大変な金額です。公立幼稚園を無くすということは、箕面市は、市全体で子育てすることを放棄し、「子育てしやすさ日本一」をやめることにつながるのではないのでしょうか。

| 園 | | 私立幼稚園 | | | | | | | | 公立幼稚園 | |
|----------|-------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| | | a | b | c | d | e | f | g | h | | |
| 入園検定費 | | 3,000 | 3,000 | 5,500 | 300 | 3,300 | 10,000 | 2,000 | 2,000 | 0 | |
| 諸経費 | 入園費 | 入園金 | 80,000 | 80,000 | 80,000 | 70,000 | 73,000 | 63,000 | 70,000 | 70,000 | 0 |
| | | 制服・用品代 | 56,000 | 40,000 | 25,000 | 25,000 | 55,000 | 30,000 | 45,000 | 40,000 | 25,000 |
| | | その他 | - | 3,500 | - | - | - | - | - | - | - |
| | | 小計 | 136,000 | 123,500 | 105,000 | 95,000 | 128,000 | 93,000 | 115,000 | 110,000 | 25,000 |
| | 保育費他 (月額) | P T A 費 | 1,000 | 600 | 500 | 750 | 850 | 700 | 1,000 | 500 | 500 |
| | | バス代 | 5,400 | 4,000 | 3,000 | 0 | 4,000 | 0 | 3,500 | 0 | 0 |
| | | 給食費 | 5,000 | 3,100 | 3,500 | 2,500 | 4,000 | 0 | 3,000 | 4,700 | 0 |
| | | その他 | - | 4,000 | 300 | 400 | 1,500 | 5,300 | 1,500 | - | 2,000 |
| | | 小計 | 11,400 | 11,700 | 7,300 | 3,650 | 10,350 | 6,000 | 9,000 | 5,200 | 2,500 |
| | 3年保育・2年保育で支払う合計金額 | | 546,400 | 544,700 | 367,800 | 226,400 | 500,600 | 309,000 | 439,000 | 297,200 | 85,000 |
| 1年あたりの経費 | | 182,133 | 181,567 | 122,600 | 75,467 | 166,867 | 103,000 | 146,333 | 99,067 | 42,500 | |



公立幼稚園を廃止にするならば、公立幼稚園に通う保護者、また公立幼稚園に通おうと考えている保護者への、入学金・制服代・バス代・給食費の全額補助まで市に補償していただかないとこちらとしては納得できない金額です。

また、私立幼稚園だけになってしまうと、費用の値上げなどが生じた場合、さらに家計は苦しくなることが予想されます。

7. 教育理念が変わらないこと。

公立幼稚園は、園長先生が変わっても教育理念までは変わらないため、安心して通わせることができます。私立幼稚園では、園長先生が変わると幼稚園の方針・雰囲気も変わります。

8. 公立幼稚園の立地条件が良いこと。箕面市の財産であること。

(残念ながら、ひがし幼稚園は無くなってしまいました)

どの地域からも通いやすい立地にあります。また、4園の中から選べるというのも魅力です。公立幼稚園の廃止は、市民の財産である市有財産の売り払いになるのではないのでしょうか。

以上

※それでも公立幼稚園を廃止する場合は、以下のことを要望します。

—記—

1. 説明会を開いてからの決定を強くお願いいたします。

その時点での公立幼稚園へ通う保護者への説明会はもちろん、兄弟関係で公立幼稚園へ通わせたいと考えている保護者も多く、次期公立幼稚園へ通うことを考えている地域の保護者へも一緒に説明をお願いします。（ひがし幼稚園の際は決定後の報告でした。二度と市民の意見を尊重しない決定をくださうようなことがないようお願い申し上げます。）

2. 何年後に廃止なのかをはっきりさせてください。

入園予定の園児を受け入れないようにするのか、入園した後に転園させるのかまできちんと決めてください。

園児にとっても、保護者にとっても、幼稚園や友達が変わることは、多大な心身の負担となることをご理解ください。

3. 近年のうちに廃止の計画があるのであれば、3年以内は避けてください。

私立幼稚園は3年保育ですが、公立幼稚園は2年保育なので、公立幼稚園を考えていた保護者にとっては、私立幼稚園への途中入園になることが予想されます。途中入園を避けたい保護者もいます。急な変更は市の身勝手な行為です。

4. 廃止後の幼稚園の建物が、どういう用途で使われるのか説明をお願いします。

以上

※12月1日に公示された新改革プラン（素案）について、市民にとって重大な改革内容であるにも関わらず十分な周知がなされていません。もみじだよりも、新改革プランの内容については何も書かれておらず、水面下で進んでいる状況です。公立幼稚園廃止以外にも各種業務の委託化、公共施設の再配置構想、市有財産の売却、船場小学校の整備や新病院の整備の見直し、公立保育所民営化の拡大等が新改革プランの内容です。箕面市民の生活に関わる大変重要な内容のため、ご友人やお知り合い等少しでも多くの方に周知頂きたいと思えます。

そして新改革プランについて疑問に感じたことがあれば、プランの再考を求めその疑問を意見書という形で箕面市に伝えて頂きたいです。より多くの市民の声を届けるため、意見書の提出をお願いします。